西南学院講座 in Tokyo

一粒の麦から、
次の100年に向かって
Thanks and Next!
since 1916

こころの治療の本質とは何か

――臨床と哲学のあいだ Part 3

2016年
11月3日 木・祝
13:15～18:30
（受付開始、開場 13:00）

会　場 ステーションコンファレンス東京605室（サピアタワー6階）

受講料 2,000円
（事前振込。振込方法については追ってご案内いたします）

定　員 100名（定員に達し次第、申込受付を終了）

主　催 学校法人 西南学院

講　師 山竹 伸二（評論家）
小林 隆児（西南学院大学大学院臨床心理学専攻教授）

指定討論者 佐藤 幹夫（フリージャーナリスト）
西　研（東京医科大学教授、哲学者）

司　会 佐川 眞太郎（東洋大学朝霞キャンパス学生相談室）

本企画のねらい

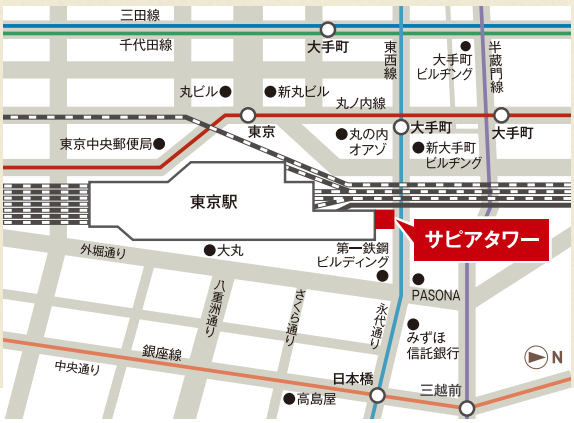
3年前、「臨床と哲学のあいだ」をテーマに開催した本講座は、昨年「人間科学におけるエヴィデンスとは何か」と続き、一貫して人が人に関わる対人援助の場において望ましい実践とは何かを、質的研究のあり方から考えてきました。その成果のひとつが昨年『人間科学におけるエヴィデンスとは何か』（新曜社）として結実しました。今回はこれまでの討論を踏まえ、第3弾として「こころの治療の本質とは何か」を考えてみたいと思います。世界的に心理療法は隆盛を誇っていますが、多くの流派が乱立し、治療を受ける側からみれば何をどのように考えたらよいのか路頭に迷うほどです。そこで今回は、最近『心理療法の謎』（河出書房新社）を上梓され、心理療法の本質について考察を深めつつある山竹伸二氏（評論家）を講師としてお招きしました。ついで、発達障碍のみならず幅広く精神障碍全般にわたって「関係」と「甘え」の観点から治療論を展開している本学の小林隆児氏（児童精神科医）が実践の立場からこころの治療の核心について論じます。指定討論者として佐藤幹夫氏（フリージャーナリスト）と西研氏（哲学者）にもご登壇いただきます。（企画者：小林隆児）

スケジュール

13:15	開催の挨拶　小林隆児
13:20	講演1「心理療法の本質を考える」山竹伸二
14:50	休憩（10分）
15:00	講演2「こころの治療の核心は何か」小林隆児
16:30	休憩（15分）
16:45	指定討論（佐藤幹夫、西研）
17:45	全体討論
18:30	閉会の挨拶　小林隆児

※講座の運営に支障をきたす行為をされた場合は、ご退席いただく場合がございます。
※受講申し込みについては、裏面をご覧ください。

アクセス



〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
JR東京駅から　新幹線専用改札口（日本橋口）より 徒歩約1分
八重洲北口改札口より 徒歩約3分
地下鉄東西線大手町駅から　B7出口直結（サピアタワー地下入口）

問い合わせ・申し込み先
西南学院東京オフィス（サピアタワー10階）
TEL 03-5220-3737　**FAX** 03-5220-3838　**E-mail** tokyo@seinan-gu.ac.jp
URL http://www.seinan-gu.ac.jp/tokyo_office/to_outline.html
開室時間　平日 9:30～18:30 / 土曜日 9:30～17:00
（日・祝日、学院の定める休日は閉室。9月～2月の土曜日は閉室）

西南学院

西南学院東京オフィス 行　FAX.03-5220-3838

『西南学院講座 in Tokyo』受講申込書

[記入上のご注意] ①住所・氏名（フリガナ）・電話番号は、必ずご記入ください。
②年齢・職業等については、受講者層を把握し、講座の運営に役立てるために使わせていただきますので、お差し支えのない範囲でご記入ください。

受講講座名	こころの治療の本質とは何か ――臨床と哲学のあいだ Part 3		
住　所	〒		
フリガナ			
氏　名			
電話番号			
年　齢	才	職　業	
今回の講座をどのような機会や媒体でお知りになりましたか?			

講 師

山竹 伸二（やまたけ しんじ）

1965年広島県生まれ。学術系出版社の編集者を経て、現在、心理学・哲学の分野で著述家・評論家として活動中。大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員。大正大学非常勤講師。現代社会における心の病と、心理的治療の共通原理について、現象学的な視点から捉え直す作業を続けており、最近では、看護や保育、介護などのケアの領域における原理的考察に関心を持っている。著書に『「認められたい」の正体』（講談社現代新書）、『「本当の自分」の現象学』（NHKブックス）、『フロイト思想を読む』（竹田青嗣氏との共著／NHKブックス）、『本当にわかる哲学』（日本実業出版）、『不安時代を生きる哲学』（朝日新聞出版）、『子育ての哲学』（ちくま新書）、『ヒトのココロがわかるフロイトの話』（監修、日本文芸社）、『心理療法という謎』（河出ブックス）など。

小林 隆児（こばやし りゅうじ）

1949年鳥取県生まれ。児童精神科医、医学博士、日本乳幼児医学・心理学会理事長。九州大学医学部卒業。福岡大学医学部精神医学教室入局後、大分大学、東海大学、大正大学を経て、現在、西南学院大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻教授。乳幼児体験がこころの臨床に及ぼす影響を探究しつつ、従来の発達障碍を初めとする精神疾患理解の脱構築に取り組んでいる。著書に『自閉症の発達精神病理と治療』『自閉症と行動障害』『自閉症とこころの臨床（共著）』『自閉症のこころをみつめる』（以上、岩崎学術出版社）、『自閉症の関係障害臨床』『自閉症とことばの成り立ち』『「関係」からみる乳幼児期の自閉症スペクトラム』（以上、ミネルヴァ書房）、『自閉症の関係発達臨床（共編）』『発達障害の感覚・知覚の世界（共著）』（以上、日本評論社）、『よくわかる自閉症』（法研）、『関係からみた発達障碍』（金剛出版）、『子どものこころを見つめて（小倉清・村田豊久対談、聞き手小林隆児）』『「甘え」とアタッチメント（共編）』『こころの原点を見つめて（小倉清との共著）』（以上、遠見書房）、『甘えたくても甘えられない』（河出書房新社）、『あまのじゃくと精神療法』（弘文堂）、『人間科学におけるエヴィデンスとは何か』（西 研との共編）（新曜社）、今年に入り『発達障碍の精神療法』（創元社）を上梓し、『自閉症スペクトラムの症状を「関係」から読み解く（仮題）』（ミネルヴァ書房）を近く刊行予定。

指定討論者

西　研（にし けん）

1957年鹿児島県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了、社会哲学専攻。哲学を「一人ひとりが自己と社会を深く考えるための技術」として再生することをめざす。現在はとくに、対話の哲学の復権、および、支援（ケア）の基礎となる人間論・コミュニティ論を主なテーマとしている。京都精華大学助教授、和光大学教授を経て、現在、東京医科大学教授（哲学教室）。教育出版小学校国語教科書『広がる言葉』編集委員。
著書に『実存からの冒険』『哲学的思考』（ちくま学芸文庫）、『ヘーゲル・大人のなりかた』（NHKブックス）、『哲学のモノサシ』（NHK出版）、『集中講義　これが哲学！』『哲学の練習問題』（河出文庫）ほか多数。共著に、中村良夫・鳥越皓之編『風景とローカル・ガバナンス――春の小川はなぜ失われたのか』（早稲田大学出版局）、『高校生のための哲学・思想入門』（竹田青嗣ほかとの共著、筑摩書房）。小林隆児・西研編『人間科学におけるエヴィデンスとは何か』（新曜社）などがある。

佐藤 幹夫（さとう みきお）

1953年秋田県生まれ。1979年より千葉県の特別支援学校にて勤務。2001年フリージャーナリスト、フリー編集者に転じる。現在、「自立支援センターふるさとの会」相談室顧問、「更生保護施設かりいほ」人材育成研修委員、「更生保護法人同歩会」評議員。1987年より思想・文学の個人編集誌「飢餓陣営」を創刊し、現在44号。また2014年より「飢餓陣営せれくしょん」の刊行を始め、現在6号（『沖縄からはじめる「新・戦後入門」』）。発達障害と司法、高齢者ケア、終末期医療、沖縄問題と、幅広い領域に関心を向けている。
著書に『ルポ高齢者ケア――都市の戦略・地方の再生』（ちくま新書）、『ルポ認知症ケア最前線』（岩波新書）、『知的障害と裁き』（岩波書店）、『17歳の自閉症裁判』（岩波現代文庫）、『自閉症裁判』（朝日文庫）、編著に『発達障害と感覚・知覚の世界』（共著者：西研・小林隆児・滝川一廣）（日本評論社）。

お申し込みは、この用紙に記入のうえ、FAX または郵送にて受け付けます。この用紙以外の任意の用紙またはハガキ、メールでも受け付けています。その場合は、必ず件名に『**西南学院講座 in Tokyo**』と記入してください。（申込受付確認の返信はいたしませんので、ご了承ください。）
お申し込みは先着順に受け付け、9月上旬から 順次、受講案内・受講料振込用紙を送付させていただきます。

西南学院東京オフィス
〒100-0005
東京都千代田区丸の内1丁目7番12号 サピアタワー10階
TEL.03-5220-3737　FAX.03-5220-3838
メールアドレス tokyo@seinan-gu.ac.jp

開室時間　［平日］9：30～18：30　［土曜日］9：30～17：00
※日、祝日、学院の定める休日は閉室。9月～2月の土曜日は閉室。

[個人情報のお取り扱いについて]
受講申込時にお預かりした上記の個人情報は、当講座の実施・運営ならびに次回の講座や本学院主催の講演会等のご案内に使わせていただき、他の目的には使用いたしません。なお個人情報は、紙および電子データで保存し「西南学院個人情報保護規定」、「西南学院個人情報取扱手引」に則って、第三者への無断提供、紛失、遺漏、改ざん等が無いよう、適切に管理いたします。